

編集室から

時が経つのは本当に早いものです。昨年もあっという間に一年が過ぎたような気がします。そして、一年を振り返って為しえたことを数えると、これもまたほとんど記憶に無い…。つまり、昨年も劇的には何も変わっていません。

一方で、素晴らしい出逢いがありました。仕事柄か、生来の性格なのか、幼い頃から父の転勤に伴って全国を巡った経験からなのか。全く未知の世界に飛び込んでゆくことに、それほど違和感がありません。傍で見ている方々はハラハラドキドキされるようですが、本人は確信を得たときだけ飛び込んでいるので、至って普通で、新しい体験を楽しんでいます。これからの歩みが大きな変わってゆくようなイメージを抱いています。

昨年、2012/12/12という日付がありました。そして、翌13日はなんと新月。旧暦では新しい月になる日です。十年ほど前、ある著名な方が「平成12年12月12日でひとつの時代が終わった」と言っておられたことを思い出しました。平成12年は、西暦2000年。それからちょうど12年が経過し、さらにひとつの時代から、次の時代へ移行した…。そんな印象を受けました。

そうして向かえた新年。皆様は如何お過ごしでしょうか？また、今年はどうな年にしたいとお考えでしょうか？

世情を大雑把に俯瞰すると、どうもあらゆる角度で、2極分化しているように感じられます。貧富という経済的側面のみならず、さまざまな社会的側面で。軸が3つあれば、2の3乗で8つですが、実際にはもっと軸が多いはずなので、結果的には多くのセグメントに分かれることとなります。結果として幸福感も、大きく2極化するのではないのでしょうか。

最終的にいずれに属するか、決断と実行は早めの方が善いような気がしています。(は)



能登の夜市：03-6417-9787
17:00～23:30 日・祝日 定休
目黒駅西口前。サンフェリスタ目黒B1F
<http://notoyoru.jp/>

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが経営する「能登の夜市(のどのよるいち)」。最近、問い合わせを多く頂きますので、こちらに連絡先を記載いたします。

上京された際、ご利用になってみてください。毎夜能登から直送の酒肴に包まれ至福です。もちろん、川畠さんご自身もお店に立っておられます。

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2013/01

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2013/01

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

謹賀新年

睦月



白山ひめ神社にて
by hama

寄稿『ヘタでいい! ビジネス絵手紙』

企業教育・ビジネス絵手紙講師、作家 川口 整

絵手紙をはじめて、三年目の暮れに、私は、怒りで手足がふるえた。

「あなたの筆字は稚拙よ。」姉の一言で、墨筆の「千字文手習い」がはじまった。普段は心温かい姉がなぜきついことを言ったのだろう。想い出す度、「そこまで言わなくても」と、頭がカツカと熱くなる。

「みみずのぬたくった字」を四十年間書きつづけ、世間に恥をさらしている。字が下手なコンプレックスを抱え、「なぜ字がヘタなんだ」と、六十を過ぎても、未だに悩んでいる。

十二月二十一日。「どれどれ、手本どおり書けばいいよね」と、いきなり画仙紙巻紙を広げて墨筆を走らせた。九十分が過ぎた百五十字目のころ、「イタッ!」と、右肩から背中にかけて痛みが走る。二十二日、背筋痛養生のため、臨書を休む(さぼる)。二十三日は、七百字目まで進んだ。二十四日の深夜、残りの三百字を修了する。手本を横に置き、一人品評会を催した。あつけにとられてものがいえない。やはり、「拙劣か」と、悔しさに唇をかみしめる。

二十五日、二回目の千字文手習いを開始した。二十六日、背筋痛の再発。二十七日から三日間は、正月準備と大掃除で気をまぎらす。晦日、焦る気持ちを抑え、丁寧に一片、一片を、縦線、横線の線を引く練習に取り組む。二千字を修了した。今回は、「止め、撥ね・折る」を無視して、読める字を工夫した。途中で、筆のてっぺんを持つ右腕は、電気が走るみたいに、筋肉がピクピク動き、字の一回がはみ出し、やんちゃ坊主になる。手が震え、一画を停める。墨が紙面の周辺に滲み膨れる。いまだ、背筋の痛みに襲われ、投げ出しそうになる。

年が明け、書いた字は相変わらず、へなちょこになっている。だが真逆に、何とも言えない「ヘタでいい」自分の味合いを感じ、愛しい気持ちになる。三千字が終了した時点では、ただただ眺め、背筋痛も忘れ、静心になる。じーと眺める胸のうちに、込み上げる嬉しさがあつた。字が下手なコンプレックスは、姿を現さない。習字教室で聞く、「美しい字」、「手本をよく見て」の書を書こうとは思わなくなっていた。

絵手紙は、絵がある手紙になる。絵の才があるはずがない。これまたヘタツピーになる。だが絵は、モチーフを「よく見て」画けばよいと、ありのままを描くことにしている。

新時代、「ビジネス絵手紙」は、今春に誕生する。それは、「ビジネス・コミュニケーション」と「ヘタでいい、ヘタがいい」絵手紙哲学」を、一種の細胞融合で作出された、ハイブリッドになる。細胞融合は、ビジネス・パーソンを成果に導く「意を継ぐ」助力者の使命を果たす。

「意を継ぐは」、深遠な「双方向のコミュニケーション」になる。ビジネス絵手紙をお客様に、またマネジメントで仕事の仲間へしたためる一枚の継続は、仕事のノウハウやコツが、後代に名を留める「自分史」の形に变身する。

今、日々懸命に働く人々と、ビジネス絵手紙の響く力を分かち合い、交流の汪洋たる念。

来春出版予定の『ビジネス絵手紙(仮題)』より一部抜粋。



【プロフィール】(かわぐち せい)
J M A M パートナー講師、日本絵手紙協会会員、産業・心理学会会員、産業力ウンセリング学会会員。専門は企業変革。「未来に継ぐ」心富める者は、後代に名を留める」を掲げ、企業興隆づくりの研修・講演を全国で実施中。

濱のつぶやき 『一年の計』

誰にでも実現したいことがある。それを夢と表現すると、儂い印象があるからか、嫌う人もいる。

「一年の計は、元旦にあり」という。「今年こそは」と実現したいことを念じ、目標を立てる方も少なくないだろう。ただ、その一年の計が実現していないことに気づくのもまた、年末年始のこの時期かもしれない。

ある勉強会での事。願望実現の具体的な方法を紹介された方がいた。

最も重要なことは、目標の立て方。具体的な目標とその達成時期を明確にする。

次に、その目標を達成するために、最低いつまでにどうなっていないかならぬか、中間時期と状況を順次列挙する。それを月ごとに割り振る。つまり、具体的な月次目標が決まる。

それを毎月初に、一日ごとに細分化する事でさらに日次目標にまで落とす。

というものだった。そして、今日は目標達成にどれだけ近づいたか、毎日振り返るのだという。

さすがに、これだけキッチンと区切りをつければ、日日前進せざるを得ない。

我々は気づかぬうちに、自分を縛るような価値観を心に纏っている。そして、実はどこかで変化を嫌っている。新しい何かを求めているようで、その実、心の奥では無意識に現状継続を望んでいる。矛盾した状態では、潜在意識の方が勝つらしい。そして、願いは適わない。件の方のように、自分を変わらざるを得ない状況に追いたて、日々確認することを自らに律していける人は、極稀なのかも知れない。

つまり、実現したいこと・夢・願望が実現しないのは、それに向かつて真摯に向き合い、歩みを止めずに日々過ごすことができない自分自身の問題だと、改めてこの時、突きつけられたような気がした。

それはまた、実現したいこと・夢・願望が、自分にとつてどれだけ真剣味があるのか、という自らへの問いかけでもあるだろう。

願いが適うということは、願ったということだけではなく、むしろ実現への意志力こそが試されるのかも知れない。

それは、新興国の金融機関から1億円の融資がドタキャンされ、全ての借入金返済ができなくなった日から始まった。民事再生手続きに入る2ヶ月前、経営経験ゼロの新取締役を値踏みするまでもなく、延滞先の債権者は一齐に回収モード。過去と訣別した我々は、粉飾を重ねて他の金融機関からニューマネーを得るようなことなど、できるはずもない。まさに新取締役となったその日、再生の枠組み検討と並行して、毒をも食らうかのような資金調達への道がスタートした。

資金の出し手は限られていた。企業再生を専門とするファンドからは、多くのアドバイスとその後につながる貴重なご縁を頂いた。ベストシナリオは、会社分割による私的整理¹で、これをファンドで丸抱えしてもらうこと。だが結局は、ご縁は頂いたが資金は1円も出なかった。メインバンクと呼べる銀行が存在せず²、これだけの粉飾をしていること等から、債権者の理解を得るのは至難の業だと言う。民事再生等の法的整理により、法律の下で透明性をもって手続きを進めるにしろ、その申立前に資金を注入することはハイリスクだと。

当初描いていたシナリオが早々に崩れる。教科書通りにはいかない。再生の枠組みが決まらないどころか、資金繰りは一刻の猶予もなくなっていた。税金と健康保険料の滞納額は積み上がり、「納税証明が取れないとはどういうことだ」との悲鳴と怒号が営業から上がってくる。

そんな四面楚歌の下、元社長を取り巻く「灰色」な人脈に我々はすがった。

サイケなオフィス。高級スーツに身を包んだ紳士。足下からは存在感たっぷりのクロコダイルが覗く。風貌や声音に威圧感はない。決して表には出てこないが、兜町では知る人ぞ知る存在。イタリアの高級スポーツカーに乗り、誰もがその車に「赤」をイメージするところに、あえて「白」を選ぶ。

その当時、まだ「黒」ではなかった灰色の人脈の一人に、我々是对峙することとなる。

例え毒入りの恐れがあったとしても、そのリングを食べるしかなかった。安全なリングはもう周りに残されていない。自分自身が毒になることは許されないが、毒入りリングの力を借りることは許されるだろう。例え道義的に非難されることがあっても、躊躇したら餓死だ。なによりサドンデスが私は怖かった。立ち止まらずに前へ進もう。我々はまさに、毒をも食らうかのような資金調達の道を選んだのだ。

1: 法的整理は法律に基づき裁判所の下で手続きを進めるのに対し、私的整理は債権者と債務者の協議により処理を図るもの。私的整理で用いられる会社分割とは、資産・負債をグッドカンパニーとバッドカンパニーに分け、その後の事業継承を円滑に進めるという手法。

2: 実際の主要な借入先は大手3銀行がほぼ横並び。各銀行向けにそれぞれをメインバンクとする粉飾の決算書を作成。

昨年の同月号にも同様のテーマで原稿を書かせていただいたので、今年の忘年会動向はどんなもんか？について知り合いのお店のインタビューを中心にお伝えしていきます。

1. やきとん店経営の女将Aさん(飲食業歴36年)

『昨年よりはまだまだしょ。ただこの一年で随分と遅い時間まで飲み食いするお客さんが減ったわね。』『来月からは隣に大きなオフィスビルが建つからそれまでの我慢ね。』

そうなんです目黒は昼間人口がおよそ3000人近く増えるのです。サラリーマンが3000人増えるというのは近隣の飲食業には大きなプラスインパクトですね。取り込み率3%としても×客単価5000円×月次の利用頻度1.5回=675千円/月の経済効果があります。しかし、良くも悪くも外的環境変化に大きく影響を受けるという構造なんです。

2. おでん屋経営の大將Bさん(飲食業歴33年)

『うちはカウンターの店だから大きな宴会はないけど今年はいいんじゃないかな。』

『例年より寒くなるのが早かったからおでんは出るよ』

「気温の変化」と「商品の関係」はコンビニ業界でも分析が行われ商品開発や投入時期に生かされています。ただコンビニと違ってある程度主力商品は決まっているので、ここでも「気温」という外的環境の変化に影響を受けるのですね。

3. 手羽先屋経営のマスターCさん(飲食業歴4年)

『12月は予約でほぼ埋まっていますよ。今年はほっとしています。』『2軒目利用で深夜にいらっしゃるお客さんも今年は多いですね。客単価も高いです。』

さすがは目黒の人気手羽先屋さんです。ここはほぼ毎日満席状態ですが、12月は席をとることすら困難な状況です。昨年のインタビューでは「お客さんの帰りが早い、吞んでくれない」という内容からすると大きな変化があったようです。また、心のこもったサービスをされているお店なのでこの一年でファンをたくさん作られたということもあると思います。

4. 某チェーン飲食店店長Dさん(飲食業歴5年)

『あまり話したくないですけど宴会はすごく厳しいです。予約が前年の半分くらいです。』

目黒ではチェーン店は苦戦していると聞きます。学生や若い人たちが集積するような街ではないということもあるのでしょう。立地戦略のミスマーケティングですね。もしくは資本力のあるチェーン店だからこそその「面の戦略」なのでしょう。

5. スナック経営のママEさん(飲食業歴8年)

今年3月に閉店されました。

と昨年と同様のみなさんにお聞きした結果

専門店が軒並み好調で、チェーン店が苦戦と昨年とは逆の構図であること

冬のボーナス支給額の低下など景気のマイナス局面とは比例しない動きであること

来年1月の新たなオフィスビルに大きな期待を寄せていること

ことです。

個人的には12月の衆院選・都知事選が結果的に酒のいい肴になっている気もします。当店で滞り時間の長いお客様の多くはこの話で終始盛り上がっています。民主党も最後はいい仕事してくれたんじゃないかな(笑)。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

「ななつ星 in 九州」ファーストゲスト 静岡県職員 溝口 久

JR九州が来年10月に日本初の豪華寝台列車を走らせる。名付けて「ななつ星in九州」、日本版のオリエント急行だ。

九州は3.11翌日に九州新幹線開通の大イベントを控えていたのに、自粛せざるをえなくなった。なんとというタイミングかと天を恨んだことと思う。

今度は、JR九州の唐池社長が20数年前から温めていた肝煎りのプロジェクト「ななつ星」の登場だ。日本だけでなく世界が度肝を抜くのではと期待している。

何となくそんな列車をJR九州が走らせることは知っていたが、特に身近に感じることはなかった。東京に人に会いに行くついでに何か面白そうなイベントはないかと探していた時に、日経新聞の「Feel New Kyushu フォーラム2012~深く味わう、新しい九州~」に目が止まり申込みむことにした。

日経ホールでその「ななつ星in九州」のプレゼンがあったのだ。「ゆふいんの森号」のデザイナーでもある水戸岡鋭治氏が列車の内外装の意匠を手掛けている。最近では九州新幹線「つばめ」もそうだ。この「ななつ星」は和洋折衷をコンセプトに外観の赤は「古代漆」を表現したとのこと。客車に14室の部屋、ピアノの生演奏を楽しめるバーカウンター付き展望車と食堂車も連結する。博多駅を出発し九州各地を巡る3泊4日と1泊2日のツアーが用意されている。

「うーん！まずは申込みでみよう」何やら平成7年8月に由布院観光総合事務所事務局長の全国公募に応募した時のような気分だった。

JR九州から***この度は、第一期分のお申込みをいただきありがとうございました。

お申込み多数の場合は、お申込みいただいたお客さまのなかから厳選な抽選を行い、ご旅行に参加いただくお客さまを決定させていただきます。抽選結果については、11月中旬までにクルーズトレインツアーデスクよりご連絡いたします。***

とのメールが届いた。10月15日の初便のみ申し込んだ。相当な倍率が予想された。

当選のあかつきにはこの九州3泊4日の旅が人生有数の思い出になるだろう。

以上が応募した時までのお話だ。



案の定、定員を大きく上回り、最も応募があったのは「デラックススイートA」で76倍。

11月15日に抽選があり、千葉県60歳の男性が当選したと翌日の新聞に掲載されていた。初便だけに応募した小生は、当然諦めモード。

11月17日Jリーグのジュビロ磐田 VS 名古屋グランパスを冷たい雨の中を応援して帰宅すると一本の電話があった。受話器の向こうはJR九州のクルーズトレインツアーデスクの秋山さんからだった。

ご丁寧に落選の電話をしてきてくれたものと瞬間に思ったのだが、明るく弾んだ声からは、ま、まさかの「ファーストゲスト」当選の知らせだった。抽選会で「くまもん」が引き当ててくれたようだ。

博多 由布院 宮崎 鹿児島 熊本 阿蘇 博多。車中2泊、由布院の宿づくりにも影響を与えた「妙見温泉/忘れの里 雅叙苑」泊の3泊4日の旅になる。

JR九州の唐池社長は「ななつ星は世界で戦っていく。一年かけて世界一の旅、時間、空間をつくりあげて行こう」とななつ星クルーズ25人の任命式で激励した。対して「私たちが世界一のおもてなしをします」と応えている。待つお楽しみは来年10月15日まで続く。このことをツアーデスクの秋山さんにメールしたところ返事があった。

師走を迎え、お忙しい毎日をお送りの事と存じます。昨日は、メールをお送りいただきまして、ありがとうございます。なんと、1000の方にメールを送付されたとの事！社員全員、良いプレッシャーを感じながら、喜んでおります。ありがとうございます。溝口さまのホームページも拝見させて頂きました。由布院温泉観光協会、旅館組合事務局長もなさっていたのですね。溝口さまから玉の湯のお葉書を頂戴したり、毎年、由布院に行かれているとのアンケートを拝見いたしましたので、由布院にゆかりがあるのだなと感じておりました。今後も、いろいろな情報をお伝えして参りますので、JR九州ならびにクルーズトレインななつ星in九州をどうぞよろしくお願いいたします。

さらに、アクロス福岡シンフォニーホールでの「サウンドクルーズコンサート2012 浪漫鐵道の夜」S席の招待状が届いた。

「ななつ星」に乗り込む前から旅はすでに始まっている。

